2012年(平成24年)2月18日 土曜日 神戸新聞

# 「ふと将来 不安になる」

## 福島のNPO招き 子育ての現状聞く

中央区

福島県郡山市で子育て支援をするNPO法人「ココネット・マム」の2人を囲む「福島でママを支援する、福島のママのおはなし」が17日、市勤労会館（中央区）で開かれた。東日本大震災から間もなく1年。「頑張って生活している。でもこの1年の時間を返してほしい」などと語った。

昨年6月から郡山市に職員を派遣している認定NPO法人市民活動センター神戸（中央区）の主催。

ココネット事務局長の鈴木美礼さんは、沿岸部の大熊町から避難した子どもの心のケアや、仮設住宅での居場所づくりの事業を紹介した。代表の首藤亜希子さんは運営する学童保育で放射能のために屋外で遊べなくなったことを説明。子どもたちは乱暴になったり、奇声を発するようになったりしたという。

福島県内にとどまる決心をした首藤さん自身も、小学6年と3歳の息子の母。「夜中などにふと将来が不安になることもある。今後は心を元気にする活動が必要」といい、「納得はできないし、本当にあってはいけない事故。原発がある福島以外の地域にも伝えたい」と訴えた。（大月美佳）

福島で暮らし、支援する母親の気持ちを語るココネット・マムのメンバーら＝市勤労会館

東日本大震災

# 「安心」取り戻したい

## 福島・母子支援NPOの首藤さんら 神戸で講演

## 原発事故後の現状語る

福島第1原発事故の発生以来、放射性物質の影響に不安を募らせる福島県の母親とその子どもたちを支援するNPO「ココネット・マム」（同県郡山市）で代表理事を務める首藤亜希子さん(43)＝同県石川町＝らが17日夜、神戸市中央区の市勤労会館で、福島の現状や課題などを講演した。自身も幼い子どもを持つ首藤さんは「（私は）毎日迷いながらも覚悟して生きている。子どもたちが福島で暮らすことを恥じないよう、支援していきたい」と語った。【村上正】

福島第1原発事故で苦しむ母親たちを支援する首藤さん（右）＝神戸市中央区で

講演会はココネット・マムを支援する神戸市のNPO「市民活動センター神戸」が主催し、約40人が参加した。

ココネット・マムは子育て環境の改善に取り組むNPOとして、04年に活動を開始。昨年3月の東日本大震災以降は、警戒区域などに指定された同県沿岸部から、内陸の郡山市周辺に避難する母子への物資提供や心のケア、相談活動などに精力的に取り組んでいる。

首藤さんによると、原発事故の影響で外で自由に遊べず、屋内にいる時間が増えた子どもたちが暴れたり、奇声を発するケースが増えているという。首藤さんは「リラックスした場所で大きな声を出すなどストレスを発散し、心にたまった思いをはき出すことが必要」と指摘する。

事故からまもなく1年を迎えても放射性物質への不安は消えず、首藤さんも12歳と3歳の息子を思い、食材を西日本から取り寄せたり、放射性物質がたまらないよう窓や車を定期的に洗うなど気に掛ける日々が続く。「悩みの多くは原発事故がなければなかった。長男は水泳やソフトボールなどスポーツに打ち込む機会が奪われた。この1年間を返してもらいたい」と訴える。

「電気を使う豊かな生活を選んだ大人の責任として、原発は危険なものとして減らさなければならない。各地に原発がある現状では事故は他でも起こりうるので、現状を伝えていきたい」と語る首藤さん。「（福島にいて良いのか）葛藤した時もあったが、これからも不安に思うママを支援したい」と前を向いた。